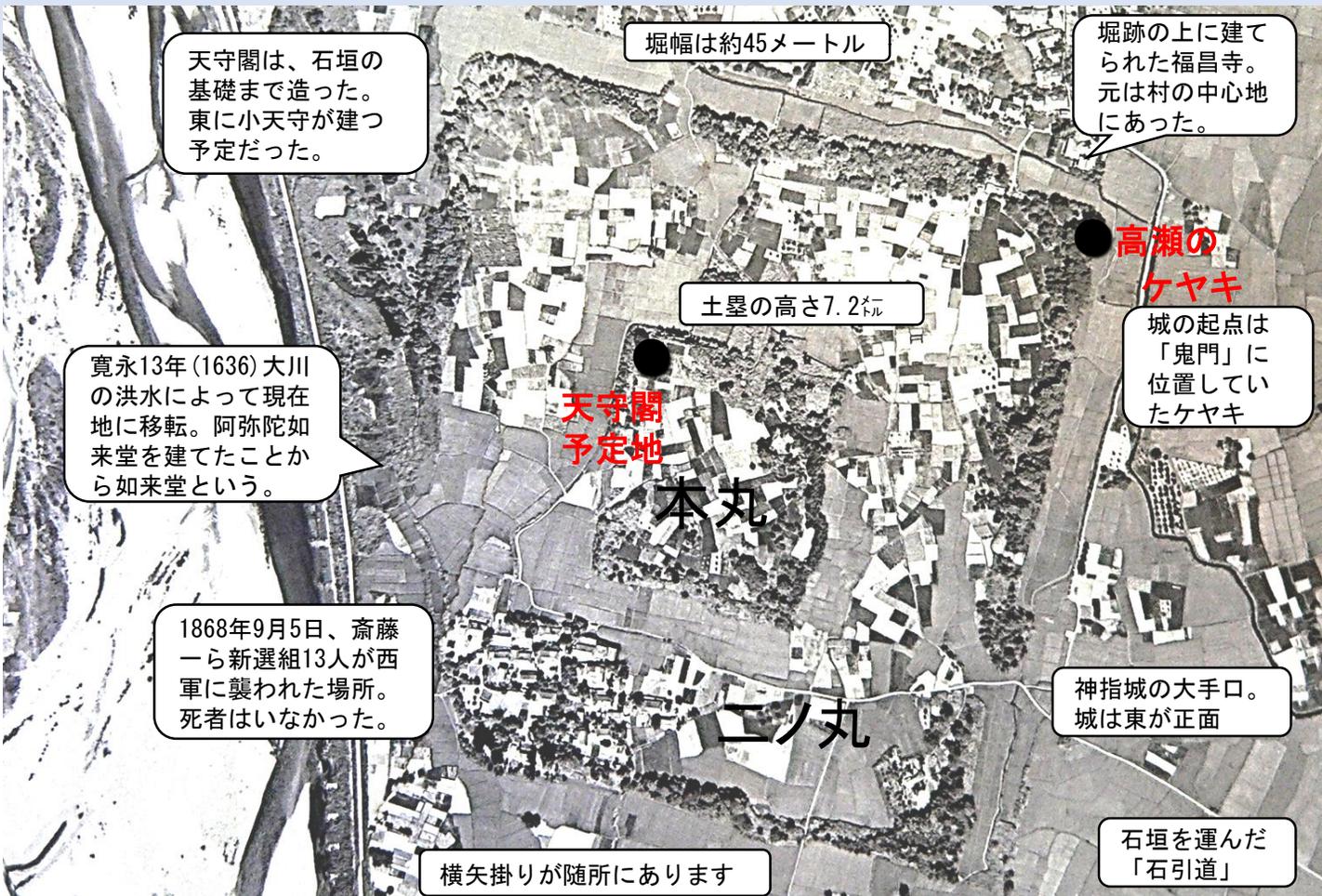


直江兼続が総指揮した神指城跡

会津若松市神指町本丸

昭和38年、ほ場整備以前の航空写真



天守閣は、石垣の基礎まで造った。東に小天守が建つ予定だった。

堀幅は約45メートル

堀跡の上に建てられた福昌寺。元は村の中心地にあった。

寛永13年(1636)大川の洪水によって現在地に移転。阿弥陀如来堂を建てたことから如来堂という。

土塁の高さ7.2m

高瀬のケヤキ

城の起点は「鬼門」に位置していたケヤキ

天守閣予定地

本丸

1868年9月5日、斎藤一ら新選組13人が西軍に襲われた場所。死者はいなかった。

神指城の大手口。城は東が正面

二ノ丸

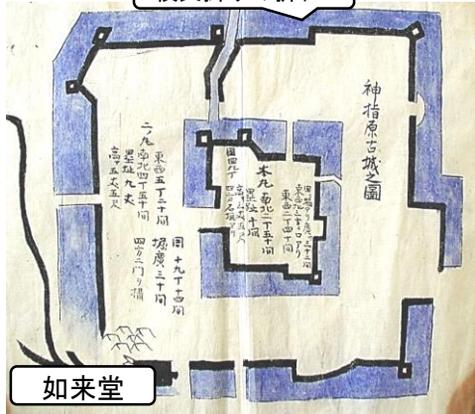
石垣を運んだ「石引道」

横矢掛りが随所にあります



本丸の石垣

横矢掛りの折れ



如来堂

神指城跡は、昭和四十二年のほ場整備以前の地形図から計測すると大きさは、二ノ丸の堀跡を含めると南北約七五〇^{メートル}、東西約七一〇^{メートル}あります。面積は堀跡を含めると約五十五^{ヘクタール}あり、若松城跡の約二倍の面積があります。大手口は東側に位置します。

北東の鬼門に位置する樹齢約六百年の「ケヤキ」(国指定天然記念物)を基点に、上杉景勝家臣、執政の直江兼続が北極星を基準にして夜測量し、町割までしました。城の北には、上杉謙信の遺骸を納めた御堂(みどう)が建てられたが未完成に終わっています。

『塔寺八幡宮長帳』に、神指地区(会津若松市神指町)の十三村を強制撤去、領内から八万から十二万人を動員し、家臣の割普請によって工事をしたと書かれています。慶長五年(一六〇〇)三月十八日から工事を開始したものの六月十日徳川家康の上杉討伐命令に備え、工事を中止し、白河方面の防御にあたらせました。本丸部分は門まで完成したとされるが、上杉氏の米沢移封前に破城された。石垣は本丸部分に積まれていることが確認できます。

『神指原古城之図』(個人蔵)は、一七七〇年頃江戸中期に描かれた図で、黒で表した土塁に折れの横矢掛りが描かれています。本丸部分の土塁の折れは、今でも確認できます。

築城途中で中断された大規模な城としては、全国的に珍しく、築城途中に作られたスロープも残されています。

